

## 【実践報告3】

# 楽器あそびを通して主体的に行動する子どもたち

境川保育園 保育士 安部 淳子

## 1. はじめに

「子どもたちが主体的に行動する」これは、保育にとっては当たり前の願う姿ではあるが、いざ行事に取り組む場合に、子どもたちが「主体的にその行事に取り組む」気持ちになって行事に向かったり、取り組む過程で困難に対しても粘り強く取り組んだりする姿などを願ってはいるが課題もある。さらに、一人一人の育ちの過程を配慮した言葉かけに工夫が足りず、ついつい保育士主導で動いてしまいがちになる。行事自体は上手くこなせても、本来の子どもたちに身につくべき姿が育っているのだろうか、振り返って反省することも多い。

本園では、0歳児からリトミックを取り入れて小さい時から音を感じ、親しみながら過ごしてきた。子どもたちはリズム遊びが大好きで、楽しむことはもちろん、集中力や達成感を身につけ自分で考えて行動できる主体的な子どもになることをねらい、リトミックを取り入れた保育に取り組んでいる。

行事において子どもたちが主体的に楽器あそびに取り組む為には、保育士はどのような環境構成、言葉かけができるだろうかと思案していた時に、「キーボードあそびはどう？一人一台準備しよう」と園長から提案があった。その話を聞いて、昨年までの姿からすぐに、子どもたちが初めて手にする楽器に大喜びする姿が目にかんだ。そこで、子どもたち一人一人に継続的に使えるように楽器を渡し、リトミックや楽器など音に親しむ日々の活動を通して「子どもたちが主体的に行動する姿」を育ていき、それが各行事へも主体的に取り組む姿につながると考えた。

楽器あそびを通して、行事に目標を持ちながら「子どもたちが主体的に行動する姿」を育てていった取り組みの様子を報告する。

## 2. 取り組みの様子

### (1) 対象児

きりん組・・・4・5歳児クラス20名（4歳児19名 5歳児1名）

### (2) 取組の期間

- ① 月1回の楽器を使った遊び  
6月より月に1回の取組
- ② 行事の取組

### (3) 月1回の取り組みの姿

- ① 6月4日 1回目 「キーボードとの出会い」  
ねらい 「キーボードを自由に触り楽しむことができる」

### <予想する子どもの姿>

- ・自分専用のキーボードをもらい喜ぶ。
- ・スイッチの入れ方を教えてもらい鍵盤を押す。
- ・いろいろな鍵盤を押ししばらく遊ぶ。
- ・リズムや楽器の音色があることに気づき押ししてみたくなり押し楽しむ。
- ・近くに座っている友だちとキーボードのボタンをお互い触り、リズムや楽器の音色を一緒に楽しむ。

(注意したい点として)

- ・嬉しさのあまり保育士の声が届かない。
- ・キーボードを箱に入れるが蓋の締め方わからず戸惑う。



### <実際の子どもの姿>

- ・一人ずつテーブルの上に置き指示を待っていた。
- ・箱の開け方がわからず戸惑う子がいたが、友だちと教え合う姿がみえた。
- ・電源の目印がなかったがすぐに気づいて音を出していた。
- ・すぐに色々なボタンを押してリズムや音色を集中して楽しんでた。
- ・電源を入れるまでは、友だちの様子を見合いながら共に取り組んでいたが、電源が入ってからは、個別に集中して遊んでいた。
- ・わからない子は、担任が援助していくと、安心して遊び始めることができた。
- ・リズム音に合わせて体を動かして表現して友だちに披露して楽しんでた。
- ・担任が電子ピアノを弾いたことによって終了の合図に気づき音をとめることができた。
- ・自分でキーボードを箱に入れ蓋を閉めることはスムーズにできた。



### <考察・課題>

- ・キーボードを一人に一台用意できたことによって、これまでみんなと一緒に使っていた楽器あそびと違い、「自分のもの」という特別感がありとても喜んでた。
- ・30分の時間設定をしていたがあっという間に終わった感じがあり「楽しかった」「またしたい」という子どもたちからの声が飛び交った。保育士も同様に感じ充実感を共有できた。
- ・事前の多くの説明を控え、使用方法などの規制をせずに自由に触らせたことが、子どもたちが主体的に創造的に使うことにつながり、良かったと感じる。
- ・電源やリズムボタンなどをすぐに理解し使いこなす子がいた。
- ・キーボードは大きなゲーム機のような感覚だった。子どもたちの「慣れ」が速い。
- ・終了の時間を知らせる際、保育士が声をだすより、ピアノを合図にしてみたが、子どもたちは瞬時に音を聞き分けて手を止めることができた。「音」を使うことの方が、声よりも効果的であり、音

を聞くことに集中していると感じた。

② 7月7日 2回目

ねらい「鍵盤のシールを見ながら弾く音を楽しむ」

<予想する子どもの姿>

- ・鍵盤ドからシまでに色分けしたシールを見て鍵盤を押そうとする。
- ・ホワイトボードに貼られた赤の磁石を見ながら同じ色の鍵盤を押してみる。
- ・鍵盤ではなくリズムを鳴らす。
- ・担任が言う色を聴いて色を押す。



<実際の子どもの姿>

- ・前回の操作を忘れていた子がいた。
- ・ホワイトボードを良く見て、赤⇒オレンジと色わけした磁石と同じ色を弾いていた。
- ・保育士が伝えた色を聴いて色を押すことが出来ていた。
- ・色の認識は全員が出来ていて集中していた。

<考察・課題>

- ・保育士が伝えた色以外を弾く子はおらず集中している姿がみえた。
- ・弾けると進んで手を挙げていた。
- ・同じ音を2回弾く場面では速度の伝え方について工夫が必要な事がわかった。
- ・自由に音を出すことが楽しいものの、色と音が結びつき、友だちと一緒に弾くと音が合わさるとを雰囲気を感じたようであった。
- ・とても喜んで取り組んでいた。15分程度自由に弾く時間を設定したが、全体で音を弾く活動に入ると中には飽きてしまう子もいた。自由遊び時間等の設定や苦手意識を持たせない為の個別配慮が必要と考えた。

③ 8月4日 3回目

ねらい「友だちと一緒に弾く音を楽しむことができる」

<予想する子どもの姿>

- ・ホワイトボードに貼られた磁石の色を見て鍵盤を弾くことに慣れる。
- ・「きらきら星」に気づく。
- ・手拍子の速度に合わせる事が難しい子がいる。
- ・出来る子と出来ない子の差がでてくる。





<実際の子どもの姿>

- ・鍵盤シールを一音ずつ確認しながら弾くことを楽しんでた。
- ・色磁石に合わせて「きらきら星」2小節目までの音を弾いて喜んで弾く姿がみえた。
- ・ホワイトボードをみながら弾くことができる子と出来ない子が出てきた。
- ・保育士が音階で歌うと手拍子がなくてもテンポが合っていた。
- ・飽きる姿はなかった。

<考察と課題>

- ・音の確認では効果的であったホワイトボードだったが、曲になると音階を見ながら弾くのは難しいことが分かった。
- ・音階の色を伝えていく方が弾ける子が増えていた。
- ・手拍子によって速さがつかめて、合っていた。
- ・自由に弾く時間を事前に15分程度設定することがその後の集中力にも効果的であるようだった。



④ 9月9日 4回目

ねらい「きらきら星の曲が弾けることに喜びを感じるようになる」

<予想する子どもの姿>

- ・ホワイトボードに合わせて進んで音を合わせる。
- ・担任のピアノ伴奏にあわせて弾こうとする。

<子どもの姿>

- ・「きらきら星」を音階の色で歌ってみる。
- ・キーボードに向い覚えた色で弾いてみる。
- ・前回の音階を覚えている子がいた。
- ・進んで弾けるが増えてきた。
- ・準備や片づけが進んでスムーズに出来るようになった。

<考察と課題>

- ・自分の弾く音が曲を演奏していることに気づき充実感が生まれてきた。
- ・音階で歌ってみるによって、曲のリズムと色の理解が早かった。
- ・後半に「ドレミのうた」のドだけを弾かせてみることによって、興味を深め次回への期待へと繋げることができたように感じた。

⑤ 10月21日 5回目

ねらい「お楽しみ会で演奏することを楽しみにすることができる」

<予想する子どもの姿>

- ・発表の場があることを楽しみにしたり，緊張したりする子がいる。
- ・色から音階読みへ展開したことによって戸惑う子がいる。
- ・音階だけで弾ける子，弾けない子がいる。

<子どもの姿>

- ・鍵盤の場所を覚えている子も出始めたので弾ける子が増えている。
- ・音階と結びつけることが難しい子がいる。
- ・色で歌った方が歌いやすい子もいる。
- ・お楽しみ会での発表を提案すると，大好きな家族に演奏を聴いてもらうことをとても喜んで意欲的であった。
- ・運動会後であった為，次のステージへの意欲が伝わってきた。



<考察と課題>

- ・文字への興味はあるものの理解は個人差があるので，無理に覚えさせようとせずに，色で覚えやすい子には認めていく言葉かけが重要だと考える。
- ・友だちと音や速度を合わせると「いい音が出てきた」「気持ちがいい」と言った声が聞こえるようになってきた。
- ・運動会で出来た自信や集中力がいきってきているように感じる。
- ・キーボードの発表は緊張する気持ちもあるようだが喜ぶ姿が多かった。

(4) お楽しみ会にむかって

- ・11月に入ってから週1回を目安に子どもの様子に合わせて活動に取り入れていく。
- ・音遊びから始まったキーボード演奏は，大好きな家族に聴いてもらえることへの喜びになり目標をもつようになった。
- ・道具の出し入れは，進んで出来るようになり大切に扱うことが出来ている。

## 2. 成果とこれから

子どもたちが主体的な音楽活動を展開するために、鍵盤キーボードを一人一台準備したことは、個人差に応じて、それぞれのペースにあった取り組みができたと考える。

また「きらきら星」「ドレミの歌」といった日頃から聞き慣れた曲を選んだことも楽しいだけではなく「できる喜び」が生まれ、主体的な姿に繋がったと言える。

更に、行事という目標が出来たことにより子どもたちと音を合わせることの面白さや喜びが生まれ、共感性や協調性を育むことが出来たと感じている。

また家庭には、鍵盤キーボードに喜んで取り組む姿を伝えることによって、家庭と共に励ましの言葉かけや成長の喜びを共有することが出来た。中には、「デパートの楽器コーナーで進んで演奏する姿を見せてくれて嬉しかった。」と保護者からのエピソードも聞かれ、自信を持った事から生まれた主体性を実感し、家庭と共に子どもたちの成長を見守ることができ嬉しく思った。

保育実践を通して、保育士が考える自由感の発想から意図的な環境構成ではあったが、鍵盤キーボードという楽器が現代の子どもたちにとっては、知育玩具のようでもあり手にした時の大きな喜びが継続的に活動に取り組むことが出来て主体的な成長の姿を育むことができたと考える。

今後、この成果をステップに主体性を持った音楽活動の取り組みについてさらに学んでいきたい。

